

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学

心理学部



2027

Faculty of

Psychology



More United More Empowered

心のつながりを探究し、 社会に力を生み出す

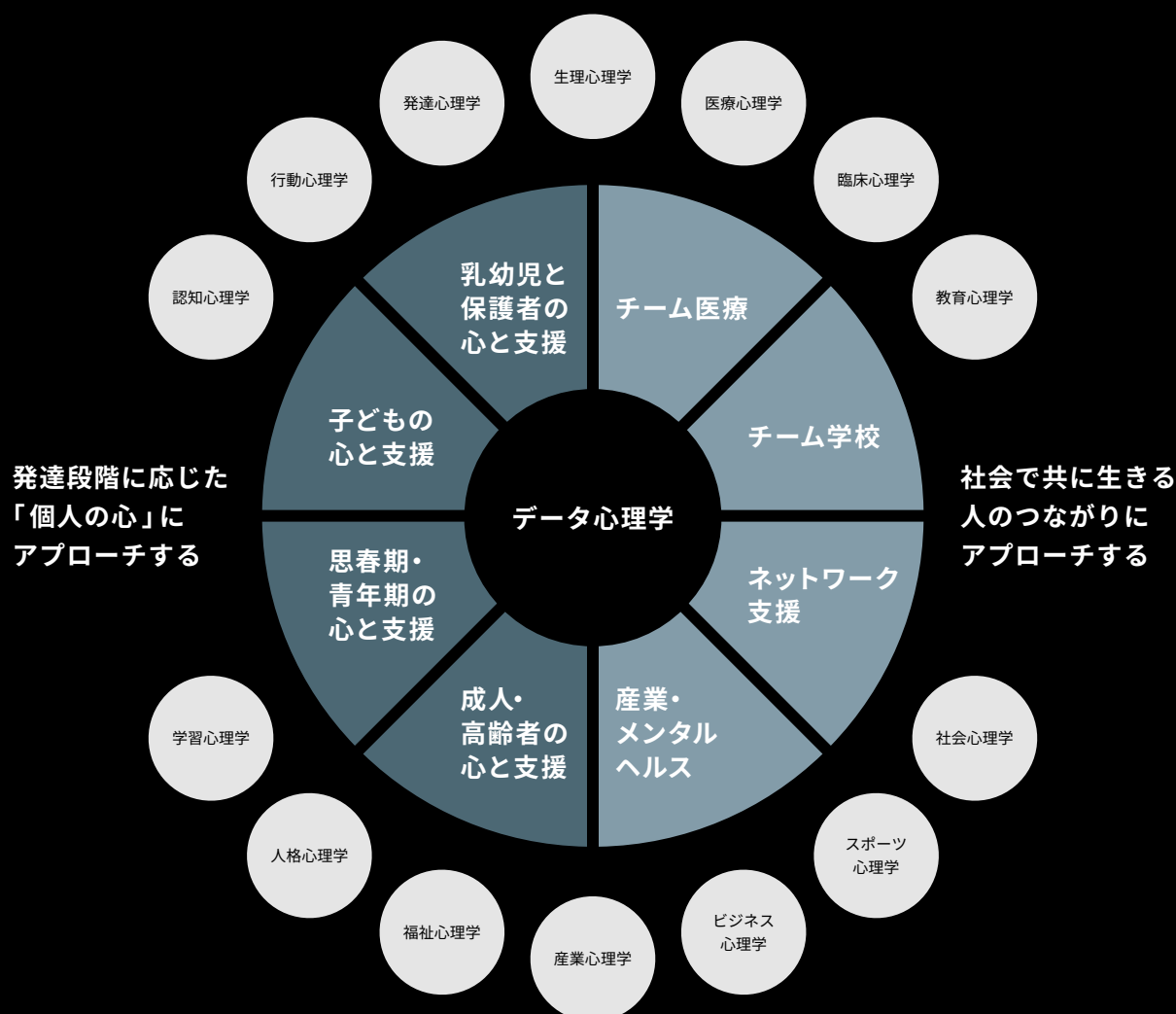
誰もが自分らしく生き、支え合える社会を実現するために。

大切なのは、誰か一人の心だけではなく、

社会を形成する人と人とのつながりを深く理解し、他者と共に行動していくことです。

龍谷大学心理学部では、実践的な学びを通じて人間関係の大切さを探究。

現代社会の課題を、心理学的アプローチから解決に導ける力を養います。



Project #1

解決をめざす「社会課題」▼

社会課題に対する若者の無関心

吉野 森さん

2年生
(京都府 花園高等学校 出身)



Z世代から見た社会課題に 心理学の視点からアプローチ

心理学の学びを実社会に還元 企業と連携し、課題解決に挑む

心理学の学びは、個人の心を探究するだけではありません。「心理学プロジェクト社会連携演習」は、心理学の知見を社会とつなぎ、「心のつながり」から社会課題の解決をめざす実践的なプログラムです。心理学部生が提案する主体的なアイデアを軸に、社会連携プロジェクトを運営し、心理学の知見が地域社会でいかに役立つのかを、実社会で検証します。私たちのチームが取り組んでいるのは、「Z世代に届く環境問題ワークショップの開発」です。環境問題という壮大なテーマを「人と社会の心のつながり」ととらえ直し、多くの若者が環境問題を「自分ごと」として感じられない理由にスポットを当てることにしました。心理的な壁を乗り越えるための具体策を検討した結果が、Z世代の心に響き行動変容をうながす、体験型のワークショップだったのです。企業と連携し、心理学的アプローチにもとづくワークショップをデザインしました。

心理学的アプローチにもとづき 「知る」を「伝える」に昇華する

今回のプロジェクトをとおして、社会に対する新しい見方が身についたと感じます。これまでどこか「他人ごと」と感じていた環境問題を、企業の現場で目の当たりにし、その課題の複雑さと向き合う人々の熱意を体感しました。私たちが得た新たな発見や学びを、関心の薄い世代に「自分ごと」として届けるため試行錯誤を重ねたプロセスにも、大きな学びがありました。自分たちと同じ世代のターゲットに対して「どうすれば興味を引けるか」「どんなことが響くか」を徹底的に考え抜くことで、心理学の知見がいかに社会に役立つのか、身をもって理解できました。答えのない問いを立て、チームでプロジェクトを進めていくには、一人ひとりの主体性が不可欠です。メンバーそれぞれの個性を尊重しながら一つの目標に向かった経験は、リーダーシップやコミュニケーション能力を磨く、かけがえのない機会になりました。





座学の学びを実践に移し 子どもたちの心に寄り添う

不登校の子どもは年々増加し、深刻な社会問題となっています。不登校問題は授業でもたびたび取り上げられており、その原因や背景を考え、コンサルテーションの例を学ぶことができました。そうした座学での学びを実践に移すのが「思春期の子ども理解と支援実習」です。実際に不登校支援センターや学校現場に足を運び、対象となる児童や生徒への学習補助やコミュニケーションをとおして、心理教育支援を行います。不登校に至った経緯や要因はそれぞれ異なっており、個々に応じた支援が求められます。私も子どもの気持ちを汲み取り、心に寄り添う対応を心がけてきました。本来であれば、スクールカウンセラーが行う支援の現場に学生である私たちが参加できるのは、とても貴重な経験ではないでしょうか。教科書だけではわからない、教育現場のリアルに触れ、心理教育支援の重要性を改めて実感しています。

他人ごとでは済まされない 誰にでも起こりうる身近な問題

実習に参加してわかったのは、不登校は誰にでも起こりうる身近な問題だということです。悪意のない一言や、発達上の課題への無理解など、周囲の何気ない言動が不登校を引き起こす事例も少なくありません。特別な経験をしたから、心が弱いからと、決めつけてしまわず、「自分ごと」として考えることが重要なのです。この問題を解決するには、現代の画一的な教育ではなく、一人ひとりの個性を尊重する教育への転換が必要だと考えます。学校に通うことを問題解決のゴールにするのではなく、もっと先の未来を見据えて、今の自分にできることを考え少しずつでも行動する。そうした小さな一歩の積み重ねが、この大きな社会課題を解決する糸口になるのではないのでしょうか。心理学の理論と実践の両面から相手の心を理解し、個別最適なかかわり方を考えていく。それが今の私にできる小さな一歩かもしれません。



Project #2

解決をめざす「社会課題」▼

不登校児童生徒の増加



岡村 和奈さん

3年生
(大阪府 大阪女学院高等学校 出身)

アセスメントをとおして
子どもの心理を理解し
個別最適なかかわり方を
考え、実践する

Project #3

▼ 解決をめざす「社会課題」

精神疾患の増加

嘉新 遥陽さん

3年生
(愛媛県立宇和島東高等学校 出身)



実習をとおして心理職の責任と現実を学び クライアントと共に歩む支援者をめざす

自分に厳しくなりすぎる 現代社会の課題と向き合う

精神疾患を抱える人の増加は、現代における深刻な社会課題です。私はその背景に、多くの人が社会のなかで他者とかかわるあまり、自分に対して過度に厳しくなっている現状があるのではないかと考えました。これまで授業で学んできた知識を土台とし、実習をとおして支援の現場に身を置いたことで、その課題のリアリティを肌で感じる事ができた気がします。施設での心理職の役割や多職種連携の現場を目にし、座学だけでは理解しきれなかった心理士として負うべき責任や、自分が将来どのような支援を行いたいのかという職業観も明確になりました。なぜ人は心を病んでしまうのか、その原因や背景を追究し、支援の方向性を模索していく過程は、社会課題への理解と対策を深める実践的な学びの場となりました。現場の空気に触れ、身をもって経験したからこそ、生きた学びが得られたのだと思います。

自分にやさしくありのままを受け入れる 他者と同じ方向を見つめられる心理職に

人々が抱えている「生きづらさ」を解消するには、ありのままの自分を受け入れ、自分自身にもう少しやさしくなることが大切なのではないでしょうか。他人にやさしく自分に厳しくなりがちな現代社会において、自らの精神的なキャパシティに余裕をもつことは簡単ではありません。しかし、今回の実習経験は、そうした「自分へのやさしさ」の重要性を再認識する機会でもありました。心理職として課題と向き合い、どう支援の方向性を定めていくかを学ぶことは、社会問題の解決に向けた確かな一歩となるはずですが、実習をとおして自分の未熟さや課題も浮き彫りとなりましたが、それも含めて将来への道筋が見えてきました。単に治療者として接するだけでなく、クライアントと同じ方向を向き、その心に寄り添いながら共に歩んでいける、そんな支援者をめざして学びを深めていきたいと、心を新たにしています。





当たり前の「遊び」に光を当て 新たな関係性を生み出すプログラムを開発

私たちが取り組んでいるのは、大人も子どもも楽しめる「遊びプログラム」の開発です。少子高齢化や人口減少が進む現代社会では、地域内のつながりが希薄化し、世代を超えたコミュニケーションが難しくなっています。この問題を解決するには、住民同士の地域的なつながりを深めていくことが不可欠です。私たちは、万人に愛される「遊び」がもつ不思議な魅力に着目し、地域社会に新たな関係性を生み出したいと考えました。全15回の講義をとおして、遊びを心理学的な観点から観察し、体験し、考察を深めることで、リラックス効果や関係性を促進するメカニズムを追究します。単に楽しいイベントを企画するのではなく、自分たちが実際に体感した経験を分析し、新たな関係性を生み出す「遊び計画」をデザインすることが目的です。「遊び」の価値を再発見し、社会課題の解決にアプローチします。

情報の先にある現場のリアルに触れ 子どもたちの真の姿を理解する

この授業を受ける前は、10歳にも満たない子どもたちの存在をどこか遠くに感じていました。年下の子どもとかわる機会がなく、「小学生もスマートフォンを持つ時代」といった断片的な情報から、自分が育ってきた環境とは全く異なる存在だと思い込んでいたからです。しかし、「シャボン玉遊び」とおして子どもたちと向き合うなかで、その意識は劇的に変化しました。そこで目にしたのは、自ら考え、楽しみながら新たな経験を積み重ねていく、一人の主體的な「学修者」の姿だったのです。「見て、して、学ぶ」プロセスを繰り返す子どもたちの純粋な好奇心に触れ、私自身にも大きな学びがありました。ただ情報を調べるだけでは見えてこないリアリティが現場にはあります。足を運び、自分の目で見て、直接触れ合う体験こそが、心理学を実社会で役立てるための確かな基盤になるのだと実感しました。

Project #4

解決をめざす「社会課題」▼

コミュニケーションの希薄化



梶原 康平さん

3年生
(大阪府立堺東高等学校 出身)

心理学の視点から
「遊び」を読み解き
世代を超えたコミュニケーションを
デザインする

Hot Topics

心理学部の取り組み

1 心理学×データサイエンス× BYODによる学びの充実

心の動きや行動をデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的にとらえることを学ぶ「データサイエンス科目」を開講しています。心理学領域におけるデータサイエンスを学びながら、情報を取り扱う際の情報倫理やマナー等の基本的な素養も身につけることができます。また、学生が所持・携帯するノートPC等を使用するBYOD (Bring Your Own Device) のもと授業を展開し、学生の情報処理・情報活用スキルの向上もめざします。



2 心理学の広がり

心理学の研究内容は、行動経済学やマーケティングの分野など、ほかの分野でも活用されています。例えば、「定価3,000円で販売」とするよりも、「定価10,000円から70%引きの3,000円で販売」とした方が、定価10,000円という情報の影響で、同じ商品であっても購買意欲を高めることができます。これは、「アンカリング効果」と呼ばれ、あらかじめ与えられた数値情報（アンカー）などが、情報を聞いた人の判断基準に影響を与える心理的な効果のことで。



3 心理学にまつわる 多彩で特色ある講義

心理学部では、心理学の知識・スキルの活用を学ぶ多彩な講義が開講されます。例えば、「コーチング心理学」では、ビジネス組織などの新しい指導方法として注目されるコーチングについて、歴史や理論背景について理解し、活用される場面や期待される効果を学びます。「マインドfulness・ヨーガ」では、マインドfulnessやヨーガとは何かを学ぶだけでなく、マインドfulness・トレーニングとしてのヨーガを実践することにより、自らのウェルビーイングの向上をめざします。



4 心理職の国家資格 「公認心理師」をめざす学び

公認心理師は、保健医療、福祉、教育、司法、産業の分野における活躍が期待されています。公認心理師の受験資格を取得するためには、学部で所定科目を履修し、卒業後、大学院での所定科目の履修または2年以上の実務経験が必要です。京都大宮キャンパス^{*1}の一角に開設されている臨床心理相談室「大人と子どものこころのクリニック」は、公認心理師の受験をめざす学生の実習施設でもあり、実践的な学びを身につけることができます。



5 新施設「黎明館」 2025年完成

心理学部設置に伴い、隣接する付属平安高等学校・中学校の敷地内に共有施設が完成しました。大学施設として教室や研究室、臨床心理相談室「大人と子どものこころのクリニック」などを、中高施設として図書室や自習スペース、食堂を含むコミュニケーションスペースなどを配置。エントランス付近には、学生や生徒だけでなく地域住民や観光客など一般の方々も集うことのできるオープンテラスカフェを設置し、地域社会とのつながりの場を生み出します。



6 心理学研究科 2025年開設

現代社会は、複雑で不確実、予測困難であり、人々は精神的・心理的な安定を一層求め、回復に対する専門的な支援への要請が高まっています。心理学研究科では、現場実践経験の豊富な教員による指導、学内実習施設での実習等によって、臨床心理学の知識にとどまらず、高度なコミュニケーション・スキルや対人援助の実践的なスキルを身につけることを目標とし、心理学的支援を担うことができる高度専門職業人や研究者を養成します。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

対人支援や良好な人間関係の構築に必要な
コミュニケーション・スキルを身につける

	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業後の進路	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester		
4年間の流れ	3つの柱を通じて心理学の基礎を学ぶ		専門的な学びを深めるための基盤をつくる		関心に合わせた専門的な学修をすすめる		4年間の学びを卒業研究にまとめる		<p>心理学の学びを活かしたさまざまな仕事</p> <p>民間企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ ・商社 ・情報通信 ・IT企業 ・銀行・証券会社 ・メーカー（自動車・電機・医薬品等） ・小売業 ・観光・サービス業 ・不動産業 ・運輸業（航空・鉄道・郵便等） ・電力・ガス業 ・教育関係 <p>など</p> <p>公務員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方・国家公務員 ・警察官 ・消防士 <p>など</p> <p>心理学を活かした「支援」の仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院、クリニックの心理職員 ・児童指導員 ・学童保育スタッフ ・キャリアカウンセラー ・学校心理士 ・少年院の心理職員 ・家庭裁判所調査官 ・大学院進学（公認心理師資格取得） <p>など</p>	
	<p>「心理学基礎科目」「データサイエンス科目」「キャリア啓発科目」の3つの柱（科目群）を置き、心理学の基礎から卒業後のキャリアも視野に入れた教育を展開します。</p> <p>京都深草キャンパス^{*1}で学ぶ</p>		<p>専門的な学びを深めるための基盤をつくる</p>		<p>関心に合わせた専門的な学修をすすめる</p> <p>「2つのプログラム」と「プログラム横断科目」を置き、その下には「9つの分野」の科目群を設定。キャリアビジョンに合わせ、関心のある分野の科目を幅広く学ぶことができます。</p> <p>京都大宮キャンパス^{*1}で学ぶ</p>		<p>4年間の学びを卒業研究にまとめる</p>			
学びの全体像	<p>教養教育科目</p> <p>フレッシュアーズゼミ</p>		<p>心理学基礎演習</p>		<p>心理学演習（卒業研究含む）</p>					
	<p>専門基礎科目</p> <p>心理学基礎科目</p> <p>心理学の基礎となる考え方そのものを学び、どのように応用心理学とつながるのかを理解する</p>				<p>専門発展科目</p> <p>生涯発達カウンセリングプログラム</p> <p>乳幼児と保護者の心と支援 子どもの心と支援 思春期・青年期の心と支援 成人・高齢者の心と支援</p> <p>プログラム横断科目</p> <p>データ心理学</p> <p>関係支援とコミュニケーションプログラム</p> <p>産業・メンタルヘルス チーム学校 チーム医療 ネットワーク支援</p>					
		<p>データサイエンス科目</p> <p>心の動きや行動をデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的にとらえる</p>				<p>キャリア形成科目</p>				
		<p>キャリア啓発科目</p>				<p>公認心理師受験資格課程科目</p>				

[取得可能な免許・資格]

- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 公認心理師受験資格課程^{*2}
- 認定心理士 ● 本願寺派教師資格（受験資格）

[めざす職業・進路]

- 企業（企画・開発職、営業職、販売職など）
- キャリアカウンセラー、学校心理士
- 児童福祉施設（生活指導員／児童指導員）
- 行政（心理専門職）
- 公務員（国家・地方）、NPO／NGO
- 教員（高等学校）

^{*1} 2027年4月、「深草キャンパス」は「京都深草キャンパス」、「大宮キャンパス」は「京都大宮キャンパス」に名称変更。

^{*2} 公認心理師の受験資格を取得するためには、学部における所定科目を履修し、卒業後に大学院に進学して所定科目を履修したうえで修了する必要があります。

Seminars

ゼミ紹介

水口 政人 ゼミ

組織力の最大化

「本音の議論」が組織を強くする ビジネスに生きる心理学を实践

水口ゼミは、心理学部で唯一「ビジネス」の視点をもつゼミです。「組織の力を最大化する」という社会課題に対し、心理学の知見を実社会でどう活かしていくかを、徹底的な議論をとおして学んでいます。組織で活動するメリットのなかでも、「議論」は組織の力量が大きく表れる場面です。組織のあるべき姿について学びを深めていくなかで、私は「心理的安全性」の真の意味に気づかされました。それは単に空気を読んで同調することではなく、たとえ結論が遠のいたとしても、全員が「本音」をさらけ出すことです。そうした衝突と対話のプロセスを経てはじめて、メンバー全員が高いエンゲージメントをもって、同じゴールをめざすことができるのだと考えます。表面的な仲の良さではなく、本音で意見を戦わせるこの経験は、将来どのような組織に属しても、チームの成果を最大化し、貢献できる確かな力になると確信しています。



中村 勇翔さん

3年生
(京都府立山城高等学校 出身)



廣橋 諒一 ゼミ

依存行動のメカニズム

依存傾向にある当事者の声を聴き 心の穴を埋める行動の背景に迫る

私たちは、精神的に病みやすい人の行動傾向を研究しています。なかでも「恋愛における依存」をテーマにしています。なぜ人は、心の穴を埋めるために依存、執着してしまうのか。そのメカニズムを解き明かすべく、当事者にインタビュー調査を実施し、グループでの仮説検討を行っています。研究から見えてきたのは、心の穴を埋める行動が「自らの人生を大きく変えてしまう」という事実でした。この結果を受けて、さらに探究心が高まっています。廣橋ゼミのおもしろさは、同じデータであってもメンバーそれぞれが異なる解釈をもち、議論が展開していく点にあります。自分一人ではたどりつけない新たな視点に触れ、心の複雑さと奥深さを実感しました。ゼミで培った多角的な視点を活かし、児童虐待をはじめとする不運や不平等に直面する子どもたちを「福祉としての心理学」の観点から支援し、自己実現の手助けをしたいと考えています。



郡川 佳一郎さん

2年生
(青森県立八戸高等学校 出身)



卒業研究のテーマ(例)

- 大学生のLGBTQ+に対するイメージについて
- 香りが心身に及ぼす心理学的効果
- 日本におけるマインドフルネスの拡大
- 震災による心理的影響の把握とケアに関する一考察
- イップスに陥る原因と克服へのプロセス
- 大学生における他者理解と共感経験について
- 大学生における幼少期の地域コミュニティと子育て観について
- 大学生におけるファッションとアイデンティティの関連性



三林 真弓 ゼミ

対人関係と愛着

日常的な感覚と心理学を結び 心の変化に寄り添える力を養う

人の心情が行動に表れることに興味をもったのが、心理学を志した原点です。「第一印象」といった日常的な感覚が、実は心理学的な理論に裏打ちされていることを知るプロセスは、知的な発見に満ちています。現在は、目に見えない心理的要因をどう定義し、客観的に調査するかという難しさと向き合いながら、卒業研究の計画を立てています。壁に直面したときは、先生の的確なアドバイスを助けられています。また、ゼミの幹事として交流会を企画し、なかなかメンバー同士の距離が少しずつ縮まっていく喜びを実感した経験は、対話の重要性を知る貴重な機会となりました。今後は学びを発展させ、対人関係の基盤である「愛着スタイル」をテーマに研究を進めていく予定です。研究をとおして専門性を磨き、自分や他者のわずかな心の不調にもいち早く気づき、そっと手を差し伸べてあげられる、そんな人になりたいと思います。



池田 美来さん

3年生
(大阪府立寝屋川高等学校 出身)

志田 望 ゼミ

夢から探るストレスの要因

身近な事象を文献から読み解き 「夢」を心理学的にとらえ直す

同じ状況にあっても、なぜ人によって反応が違うのか。この純粋な問いが、心理学に興味をもったきっかけです。日常の疑問を理論的に理解したいと考え、心理学部を志望しました。現在は「夢」をテーマに研究を進めています。ストレスや日常の出来事など心理的要因が夢の内容に影響すると知り、身近に感じていた「夢」を心理学的にとらえ直すことができました。調べる過程そのものがとても楽しく、学びを深める貴重な機会にもなっています。発表をとおして、自分にはない視点やさまざまな意見に触れて視野が広がっていくのもゼミ活動の醍醐味です。特に興味深いのは、仲間とのグループワークです。意見を交わし、相手の考えを知るなかで、コミュニケーション力も向上しました。理論だけでなく、具体的な技法や事例についても理解を深め、相手にとってより良い支援とは何かを追究していきたいと考えています。



宮地 ゆらさん

1年生
(山口県立防府高等学校 出身)

- 子どもの遊びの発生要因、環境要因
- 大学生の幸福に関する一考察
- 大学生の学校適応感とコミュニケーション能力の関連について
- 大学生の心の居場所に関する研究

- 大学生が抱く大人イメージについて
- 日常生活の心理状態と夢の内容の関係性について
- コミュニケーションの図り方の違いにおける出生順位の影響
- 養育態度と承認欲求の二側面の関係

医療法人社団千春会

千春会病院 地域連携室 勤務
公認心理師／臨床心理士

システムズアプローチで人をつなぎ
多職種が連携する医療現場を支える

学部時代に心理職の意義を感じ、大学院への進学を決意しました。専攻では専門職の心構えや振る舞いを学ぶと同時に、システムズアプローチの観点から人と人との関係性を考察し、より多様な支援方法を探究しました。一般病院の心理士として働く現在は、患者さんとの直接的な面接だけでなく、多職種へのコンサルテーション的な関わりも行っています。医療従事者と患者さん、スタッフ同士の関係性までを支援の対象として考えられるのは、システムズアプローチの真骨頂です。入社して1年が過ぎた今、ようやく自分の強みと課題が見えてきました。今後は同じ領域で活躍しようとする未来の後輩のためにも、日々の臨床活動の成果を形に残したいと思います。

Life after G



他の医療機関やクリニックとの連携も重要な仕事の一つ。お互いの専門性をより発揮できるよう、日頃から全体を俯瞰して見る視点を大切にしています。



北野 喬祐さん

文学部 臨床心理学科 2023年卒業
文学研究科 修士課程 臨床心理学専攻 2025年修了
(石川県立小松高等学校 出身)

My Background



大学1年生

臨床心理学を初めて学修。想像していた心理学とのギャップを感じながらも、対人援助の面白さに少しずつ惹かれていきました。



大学2年生

公認心理師の職責を学び、心理専門職として働くことを意識するようになります。めざす進路がより具体的になってきた時期です。



大学3年生

実習報告会で、実習での学びを発表。臨床現場で働く先輩心理士の様子を間近で見て、この仕事の意義と難しさを痛感しました。



大学4年生

4年間の集大成である卒業論文をゼミで発表しました。直前まで修正を繰り返し、緊張しつつも、やり遂げることができました。

株式会社マイナビ

就職情報事業本部 勤務

心理学的な視点と傾聴スキルで 相手とより良い信頼関係を築く

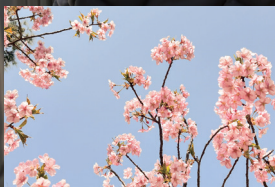
在学中は、家族心理学や臨床心理学を中心に心理学全般を幅広く学びました。組織心理学の知識や集団における人間関係の構築法は、現在の仕事に直結しています。具体的な業務は、新卒採用を検討している企業のフォローや提案です。信頼関係を構築するうえで、心理学的な視点や傾聴力が生きています。ゼミや実習をとおして身についた「相手の立場で考える力」も、企業と学生双方の視点を理解するうえで欠かせないスキルです。人と人とのつながりの大切さや関係性構築の本質を深く理解しているからこそ、企業と学生の橋渡しができていたのだと感じます。相手に信頼していただける関係づくりを意識し、企業の採用成功に貢献したいと考えています。

井上 真理子さん

文学部 臨床心理学科 2024年卒業
(大阪府 開明高等学校 出身)

raduation

My Background



大学1年生

コロナ禍の入学で規制が多く不安なスタート。グループワークや話し合いの時間をしっかり設けていただき、安心して大学生活を送ることができました。



大学2年生

1年次の学びを踏まえた幅広い選択肢から自分が受けてみたい授業を選択。興味ある分野に特化できる環境を与えていただき、存分に学びを深めました。



大学3年生

就職活動と卒業論文の下準備で忙しい毎日。卒業論文に必要な統計の授業に苦勞するも、仲間やチューターの方のサポートのおかげで乗り越えられました。



大学4年生

先生方の手厚いサポートを受けながら、卒業論文の執筆に注力しました。お忙しいなか何度も相談に乗ってくださった先生には、感謝しありません。



相手のことばに真摯に耳を傾けるのがお客さま対応の基本。対話をとおして丁寧に要望を聞き取り、ニーズにあわせた提案に努めています。



心理学の専門的な学びの成果を活かしたキャリアデザイン

心理学部では、初年次の段階からキャリアに関する科目を配置し、卒業年次まで途切れることなく自身のキャリアについて考える教育を展開します。そのなかでは、一般的なキャリア教育にとどまらず、心理学の専門的な学びの成果を活かしたキャリアを考えます。対人支援の現場だけでなく、広く一般社会でも心理学の知識やコミュニケーション・スキルは活用できるものであり、例えば企業の企画・開発職や営業職等として生産性や創造性の向上に活用できるなど、学生がさまざまな進路において活躍し、より良い社会づくりのために貢献することが期待されます。

キャリアに関する科目

●キャリアと心理

大学での心理学の学びを卒業後の進路選択や職業選択、長期的な人生設計に役立てられるよう、「自己のあり方」を考えます。

●キャリアデザイン論

生涯をとした持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するため、自身のキャリアデザイン力の涵養をめざします。

●心理学の職業的展開

卒業後の社会参加に向け、課題を見つけそれに向けた計画が立てられるようになるため、企業からの「課題」に取り組みます。

●仕事と社会人Ⅰ・Ⅱ

企業と顧客のコミュニケーションに焦点を当て、ビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナーを実践的に学びます。

●心理学プロジェクト 社会連携演習

心理学部生のアイデアを活かした社会連携プロジェクトを実施し、人とのつながりを理解し、心理学の役割を地域で体感します。



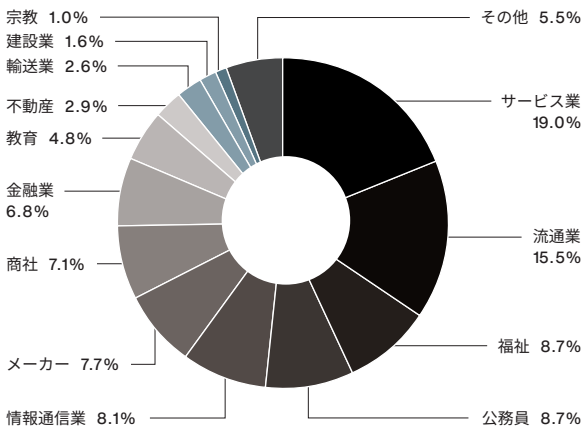
自己理解と他者理解の両軸で、誰かのがんばりを支えられる人に

グループワークや自己分析、企業・業界研究をとおして、社会で求められるスキルや実際の仕事をイメージできるようになり、自分のキャリアを具体的に描くことができました。特に印象に残っているのは「仕事と社会人Ⅱ」です。企業の人事担当者の方から直接フィードバックをいただき、チームで課題解決に向けたプレゼンテーションに取り組む過程は、まさにインターンシップながらでした。社会人としての視点や、自分が他者からどう評価されるかを知る貴重な機会となり、就職活動に向かう自信もつきました。心理学部で培った「人を理解する力」と、キャリア科目で養った「自分を知る力」は、実社会で柔軟に成長し続けるための大切な軸になると確信しています。相手の心に寄り添う傾聴力やコミュニケーション・スキルを活かし、将来は他者のがんばりを支えられる仕事に就きたいという目標も見つかりました。自分らしいキャリアを築くため、今後も学びを深めていきます。

三浦 和音さん 3年生（滋賀県立東大津高等学校 出身）

就職状況 ※心理学部は2023年4月開設のため、文学部臨床心理学科の就職状況を掲載

文学部臨床心理学科 ※2019～2024年度卒業生実績



2025年度公認心理師試験合格率
[2025年度文学部研究科臨床心理学専攻修了生実績]

90.9%

[主な就職先]

心理学の知識やコミュニケーション・スキルを活用し、対人支援の現場のみならず、幅広い業種で活躍

- 【メーカー】
 - 株式会社再春館製薬所
 - 日新薬品工業株式会社
 - 株式会社パロマ
 - スズキ株式会社
 - 日野自動車株式会社
 - 株式会社村田製作所
- 【輸送業】
 - 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)
- 【商社】
 - 株式会社カトージ
- 【流通業】
 - 日本マクドナルド株式会社
 - 株式会社ジエイアール西日本伊勢丹
- 【金融業】
 - 株式会社ゆうちょ銀行
 - 日本生命保険相互会社
 - 富国生命保険相互会社
 - 明治安田生命保険相互会社
 - あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
- 【情報通信業】
 - 株式会社マイナビ
- 【サービス業】
 - 京阪ホテルズ&リゾート株式会社
 - ワタベウェディング株式会社
 - 京都中央農業協同組合
- 日本郵便株式会社
- 国立大学法人浜松医科大学
医学部附属病院(心理士)
- 【福祉】
 - 社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
 - SOMPOケア株式会社
 - 株式会社マザーズ
 - 社会福祉法人和敬会 八楽児童寮
- 【教育】
 - 国立大学法人大阪大学
 - 大阪府教育委員会
 - 学校法人関西医科大学
 - 神戸市教育委員会
 - 株式会社LITALICO
- 【公務員】
 - 厚生労働省
 - 法務省
 - 国税庁
 - 裁判所(事務官)
 - 京都家庭裁判所
 - 福井県庁
 - 和歌山県庁(心理職)
 - 警視庁
 - 大阪市役所
 - 京都市役所 など

※主な就職先は業種順に記載



株式会社フェリシモ 内定

ストレスを力に変えるレジリエンスを研究 徹底した自己対話と言語化で将来を拓く

「ポジティブ心理学」と出会い、ストレスを力に変えるレジリエンスの重要性を学びました。また「被害者学」の授業を機に少年犯罪被害当事者の会でお手伝いをした経験は、物事を多角的にとらえる視点を養う貴重な機会となったと感じます。就職活動では、日々の思いをノートに書き留める「言語化」を徹底し、飾らない自分と向き合うことを意識しました。気持ちを丁寧に拾い上げ、ことばにする習慣によって私自身の目標も明確になり、面接でも納得のいく回答ができたと自負しています。将来は人事として、就活生が自身の本当の思いに気がつけるようなイベントを企画したいと考えています。

下岡 綾菜さん

文学部 臨床心理学科 4年生
(奈良県 育英西高等学校 出身)

京都中央信用金庫 内定

「傾聴」の姿勢で真のニーズを汲み取り 京都の未来を支えるパートナーに

臨床心理学を専攻し、対人援助の基本である「傾聴」の技法を深く学びました。卒業論文では絵本の読み聞かせが子どもの情緒に与える影響を研究し、心の安定には「安全基地」となる質の高いコミュニケーションが不可欠だと再認識しました。就職活動では、この学びを活かして相手のことばの背景にある思いを丁寧に汲み取り、自身の価値観も誠実なことばで届けるよう努めました。学部で培った「共感」「受容」の姿勢は、お客さまの真のニーズを把握する力になると確信しています。金融の枠を超えた最適解を共に考え、信頼されるパートナーとして、大好きな京都を活性化させたいです。

中野 ひなたさん

文学部 臨床心理学科 4年生
(福井県立敦賀高等学校 出身)



龍谷大学大学院 心理学研究科 進学

誰もが自分らしく生きられる 支援のあり方を導き出す

学科では、不登校や虐待の発生機序を分析し、解決に向けた具体的な心理的介入の手法を学びました。単なる症状の緩和にとどまらない、その人らしく生きるための支援のあり方を考察していくなかで、臨床心理的な知識や専門技術を修得したいと考えるようになりました。心理学研究科を志望したのは、十分な専門性を身につけられる豊富な実習に魅力を感じたからです。試験対策として、心理学用語を自分のことばで説明できるよう努め、心理職として働くうえで重要な法の知識も修得しました。学科で学んだ心理学の知識や職業倫理、法律を土台とし、自分らしい支援の形を導き出したいと思っています。

馬場 友美さん

文学部 臨床心理学科 4年生
(大阪府立登美丘高等学校 出身)



京都大宮キャンパス*

京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1
Tel 075-343-3317 sinri@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約38分
JR「天王寺」駅 → 約52分
近鉄「奈良」駅 → 約54分
JR「三ノ宮」駅 → 約60分

※2027年4月、「大宮キャンパス」より名称変更。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 心理学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.psy.ryukoku.ac.jp/>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

